

- 1 会 議 名 議会基本条例推進協議会
- 2 日 時 令和 6 年 9 月 24 日（火）
午後 1 時 30 分から午後 3 時 6 分まで
- 3 場 所 第 2 ・ 第 3 委員会室
- 4 出席議員 議員 15 名
- 5 欠席議員 なし
- 6 事務局出席者 議会事務局長 丹羽至、同主幹 田島勝己
- 7 会長あいさつ
- 8 協議事項

（１）チーム会議の報告について

①災害対応チーム

塚崎議員：ＢＣＰの訓練に協力いただき感謝する。訓練についてお気づきの点があれば共有いただきたい。

片岡議員：伝言ダイヤルについて今回も間違えた人がいた。配付された手順書には事務局と議員の両方のやることが記載されていたが、混乱しやすいので、議員には議員がやる事のみ記載した資料を配付しても良いのではないか。

塚崎議員：手順書の見直しについて意見感謝する。ほかにもあれば。

大野議員：自分はＷＥＢ１７１を今回初めて使用した。聞く時は音声に変わって本当に便利だった。

塚崎議員：電話回線がつかない人もいたためＷＥＢ１７１も併用すると良かった。事務局の経験と皆さんの声を今後ＢＣＰの見直しに活かしたい。また、ＢＣＰは繰り返し訓練を行いたいと思うのでご協力をお願いする。次に、岩倉市議会基本条例の一部を改正する条例案について、前回提案した段階で色々な意見を議員や事務局からいただいた結果、見直した方がよいと考え、新しい案を作成し配付した。特に問題がなければ議会運営委員会に諮りたい。改正案を読み上げ。

水野議員：第 24 条第 3 項にある「議会又は議員は」の部分が気になる。議会と議員を又はでつなぐのは変な気がする。

塚崎議員：中点にしてはいかがか。

水野議員：議会という組織と自然人を並べて規定することがどうかと感じるので、「議員は」のままではいけないのか。

梅村副会長：ここの意図としては、議員個人としても議会組織としても知識を習得するよう努めなければならないとしたかった。議会としてもこれまで普通救命講習を行っているため。例規の審査にかけて変更になるかもしれないが、そういった意図である。

大野議員：第２項について、当時は東海地震が予測できるという前提であった。今は台風以外予測できないという考え方なので、未然防止ができるのか。作成した時の地域防災計画に合わせているため、ここは見直した方がいいかと思う。

塚崎議員：災害等というのが、地震・風水害・武力攻撃・大規模テロ・新型インフルエンザ等・大規模火災等となっており、種類がとても広く、未然に分かるものに関しては未然に防止していくことになるのではないかと思います。

大野議員：作成時の意図は、地域防災計画で地震が予測できる前提であった今は大規模火災も予測できない。台風が接近する前でも被害が起きる。当時の地域防災計画と異なっているので気になる。

梅村副会長：災害が発生することが予想されるということで、作成時は地震が予測できる前提だったとお伺いしたが、様々な災害があつて、岩倉市の災害対策本部は警報出ると同時に設置されるため、警報が出て災害が発生するまでの間に、災害が見込まれる場合、議会も未然防止に努めようという意味合いである。例としては、大雨が予測される場合、それに備えて議会でも土のうを積む等。大地震に限らず、未然防止に議会も協力しようという意味。

井上会長：未然防止は難しいという思いもあるが、いかがか。

塚崎議員：災害の未然防止ではなく、減災という意味ではどうか。

井上会長：減災に努めなければならないに変更するということか。

片岡議員：災害を止めることはできないと思う。被害をなるべく少なくするというニュアンスだとは思いますが、災害を止めるという意味だと取られる可能性もあるので、言葉を変えてはいかがか。台風を止めなければならないというような意味に取られるかもしれない。

日比野議員：被害を最小限に抑えるように努めなければいけない、としてはいかがか。

井上会長：再考してはいかがか。

塚崎議員：もう一度チームで文案を検討し提案したいと思う。また、ＢＣＰの見直しについて随時行っているため、完成したら報告する。

②市民参加チーム

井上会長：10月24日の市議会議員と小学生との意見交換会について、五条川小学校と話し合っているが、詳細はまだ決まっていない。9月中には話を進め、まとめたい。詳細は次回報告する。

③ I C T チーム

関戸議員：執行部から議会資料をペーパーレス化するとどれぐらい印刷コストを削減できるかについて資料を得た。資料が1年間に35万枚印刷されており、それに50万円経費がかかる。また、外部発注で印刷している資料も全体で50万程度かかっている。ペーパーレス化すると年間100万円の予算削減効果があるとのこと。片岡議員に詳細の説明をお願いする。

片岡議員：ペーパーレス化のシステム検討の条件とそれを満たすシステムについて資料に基づき説明。マイクロソフト365導入に向けて来年9月定例会から実施したい。

塚崎議員：まず1点目が、担当職員の異動があつて、これ、令和7年の導入ってできるのかなという、まあ、かなり難しいのではないかなというふうにまず一個感じている。ちょっとそのことに関しては、議長が今回の異動をどう協議してきたのかなというのはすごく不思議に思っている。で、この段階でもまだ令和7年に導入する方向で今話が進んでいる。できる状況なのかな、という。

片岡議員：この件に関しては引継ぎがされるというふうにチームとしては考えている。ただ異動に関しては議長は今回はタッチしていないので、議長が許可したとか許可していないとかいうのはないと思うのだが、異動に関しては。それは引き継がれるものだというふうに思っているので、ある程度道筋さえつければ問題ないのかなというふうにチームとしては思っている。局長、どうか、この件は。担当職員がいないと絶対できないことではないと自分は思っている。

事務局：予算計上まではある程度できるかと思うが、その先、異動してきた職員が議会のことを全く知らないというところもあり、これから予算以外の部分に関してつくっていかなければならないところがある。それを全く知らない職員ができるかという、ある程度知っている職員でないといつくり上げるのは難しいのではないかという気はしている。

塚崎議員：もう1点、システムの機能について、自分はマイクロソフト365を使用しているので理解できるが、この資料を読んで理解できているのか。全て紙をなくすのは不可能ではないか。印刷する議員がもしいけばその時点でペーパーレス化できていない。紙で残すものはある程度残した方がいいのではないか。

片岡議員：全てはできないかもしれない。ただ、執行機関から出されるのは紙でないということは承知していただきたい。必要であれば各議員の判断で印刷することとなる。新しい職員の件についてだが、予算がついたら運用開始までI C Tチームの議員でフォローしていく。

塚崎議員：議会内の資料もデジタル化できるが、ネックとなる予算書や決算書の分厚い資料の見開きをどうやってPDFにして画面に並べて映すのかという課題は、テクニックが必要になることが予想される。どうしても紙を併用することはできないのか。必要な人は印刷してくださいということになると、政務活動費で印刷するのか自費で印刷するのか分からないが、逆にコストがかかるのではないか。冊子に関しては紙を残すことはできないのか。

関戸議員：紙をなくすという前提での導入なので、紙はなしということになる。個人で紙が必要なら印刷する。紙をなくすと当然見つらくなる。紙をなくして、個人的に紙を印刷しなければならないということならやむを得ないが、この場で印刷しなければ仕事ができないということであれば、導入しないということになる。

塚崎議員：多様な人が議員として当選してくる。色々な人に対応できるような状態がベストで、選択できることが大切だと思う。執行機関は定年もあり勉強されている人もいるのでペーパーレス化できると思うが、議会の特性から言うとペーパーレス化は不安に感じる。

須藤議員：紙を印刷するならば政務活動費や実費で用意すればよいのではないか。ずっとペーパーレス化のために話し合ってきたが、後から来た人が言うのは腑に落ちない。

井上会長：多様な議員がいるが、ゼロカーボンを求める意味で進めていること。

日比野議員：ペーパーレス化の議論は、議会から紙をなくしていこうという合意が取れた前提でタブレットにしていく話になっていたはず。それを今ここでまた紙を残すか残さないか議論になるのは違うのではないかと思います。

梅村副会長：ペーパーレス化は段階的にやっていかなければならないことになるとは思う。次のステップの議論に進むのであれば、議会にある紙資料を並べて、これはデータ、これは紙、という議論をしないといけないのではないかと思います。塚崎議員が言われているのは、今の段階で予算書や決算書は確かに冊子の方が見やすいのでそれは冊子で欲しいと、それもPDFになってしまうのであればタブレット化は反対と考えておられるのか。議長は冊子を紙で出すのならばタブレットはやらないと言われたので、そういうことかと思ったが。

関戸議員：先ほど話した予算削減見込みの中で、外部発注している予算書・決算書・主要施策の成果報告書の冊子が削減額のうち半分になる。それ以外の35万枚の印刷は50万円となる。これは人件費を入れず紙だけの話

である。外部発注の印刷を依頼して、タブレットを導入する、というのは合理的かどうかという判断になると思う。

大野議員：他市では1年間は紙と併用し、1年経過したら紙をやめるようにやっている議会が多い。政務活動費でおおよそ1年間は、まあ。議長もそこまでは言っていないと思うが、そういう風に言ってくれないと。

関戸議員：紙で提供はされないが、政務活動費や自費で印刷していただいて、それが見やすいのであればそれでやっていくということだと思う。しかし、カーボンニュートラルやペーパーレスと言っていて、それを公に言うのはいかなものかということが言いたい。

塚崎議員：ペーパーレス化していくということは全員で合意は取れていると思うが、紙を一切なくすというのは途中から出た話。自分も今回決算議会でこれをタブレットでやったらどうかと考えていたが、たぶん追いつかないので、とても時間がかかることも想定される。紙をゼロにしたらカーボンニュートラルという考え方が違って、バランスを取っていかないといけないと思っている。配付されるべき資料を政務活動費や自費で印刷させるというのは目的から言ってだいぶ離れるのではないかという懸念がとともある。

梅村副会長：塚崎議員の言われる予算書や決算書のPDFはホームページにも今載っているが、あれを見てやるのが大変だと言うのは分かる。何種類かは紙で来る余地もありながら、ペーパーレス化できるものはペーパーレス化していくという形で進めていけばよいのではないか。今の段階で塚崎議員が、予算書・決算書がPDFでは駄目だということなら合意できないと思うが、余地を残して、やれるところからペーパーレス化していくというのはいかがか。削減額が少ないからいけないということか。

塚崎議員：梅村議員の言うとおりで、やはりPDFであのスピードで財務常任委員会はできないと思う。ずっとそれを想定しながら今回やっていた。残すべきものは残していきながら、半分でもペーパーレス化するなど。全部紙はなしというのは少しいかがかと思う。

井上会長：段階的に余地を残して、紙媒体でもお願いできるものはしていくとまとまりかけている。ペーパーレスにならないが、併用と同じ形だと思う。来年度は併用し、次回から進めていく。タブレットについてはお願いする。

関戸議員：紙を印刷することに政務活動費を使用することがけしからんということか。本来の目的と違うということか。

塚崎議員：議員の仕事で考えると政務活動費を印刷代で使用するのはいかが

か。結構な金額を印刷に使用することになるのではないか。

木村議員：執行機関の関係が前提にあるのでないのか。執行機関はペーパーレスならば対応していくのでないのか。

井上会長：導入に向けて対応していくことでよいか。

関戸議員：要請でなく、こちらも対応していくスタンスである。

(休憩)

木村議員：執行機関との関係の問題が前提にあるのでは。執行機関としてはペーパーレスでデータとして送るということ。それに対応していくために議員がこうするしかないということ。自分はどうかと対応する。

井上会長：執行機関からの要請もあるため導入に向けて対応していくということではよろしいか。

関戸議員：要請というのも語弊があって、我々もやはりペーパーレスをやりたい。行政側もやりたい。こちらからのお願いもある。その中でやりとりしながら、やはりペーパーレス化するのであればデータで全部いただき、こちらでそれを印刷するなりなんなりするのは、あまりよくはないが、印刷するというスタンスであると私は考えている。

木村議員：執行機関側もペーパーレス化してデータで全てやりとりしていくとなれば執行機関側もそれなりに対応していくと思う。だからそれはそれで仕方ないと思う。対応していくしかない。

梅村議員：データ化した方が検索など便利な機能もあるということも先ほど聞いた。

大野議員：全部をテキストデータ化したらすぐ探せるから問題ない。そのあたりをもう少し分かりやすく説明してもらわないと困る。

片岡議員：検索もできるし、これからの話合いになるが、PDFの受け取り方も、予算書や決算書など見開いた状態で1ページにしてもらえると分かりやすいので、そういった形でもらえる可能性もある。そういったことを執行機関に当然要望していく。見やすいもらい方もこれから話し合っていくので、チームに任せていただき、今後も改善の意見を出していただきたい。まずはやるということのコンセンサスを今日取りたいと思っている。

塚崎議員：令和7年度導入か。

事務局：令和7年度予算の見積を徴収した状況であるが、端末とシステムの見積である。自分は委員会で端末を持っていたが、1日使用するとバッテリーは落ちる。実際に本会議場では電源が議席にないのでバッテリーが落ちる可能性がある。委員会室においてもコードを引き電源をつなぐのか。そういった予算が入っていないため、その点も考えていくべきである。

井上会長：予算化の方向で大体合意は取れていると思うがよろしいか。

(異議なし)

(休憩)

井上会長：ICT化チームで進めていただく。

(2) ふれあいトークについて

① 10月9日(水) 午後7時 Zoom

出席：井上、大野、日比野、木村

司会：井上 記録：大野

② 10月12日(土) 午前10時 第2・第3委員会室

出席：関戸、井上、梅村、片岡、鬼頭、谷平、水野、堀江、須藤、伊藤、
塚崎、梶谷

司会：須藤 記録：水野 案内：塚崎(1階)、谷平(7階)

③ 議会報告会

10月26日(土) 午後2時から午後3時30分 さくらの家

出席：全議員 司会：大野 記録：堀江 案内：塚崎

井上会長：資料に基づき説明。

事務局：広報にて日時を周知済み。

井上会長：広報で自家用車の利用を控えるようお願いしてある。

塚崎議員：集合時間は午後1時頃か。

井上会長：開場が1時30分なので、午後1時集合とする。内容については財務常任委員会の谷平委員長から先週資料を配付してもらった。9項目出ているが、全て取り扱うと時間が足りないかもしれない。

梶谷議員：財務常任委員会で議論された中で選ぶのではないか。委員会で議論されていないことも載っている。個人的な意見はカットしていただきたい。

谷平議員：多く提出いただき感謝する。27日の本会議閉会后、財務常任委員会協議会を開催して内容を絞りたいと思っているがいかがか。それまでに資料に目を通していただき、今梶谷議員が言われた意見なども、協議会の際に話し合いたいと思っている。

片岡議員：財務常任委員会協議会では何項目に絞ることを考えているのか。

谷平議員：個人的には4項目程度と考えている。

片岡議員：当日も絞った4項目を財務常任委員会委員長が報告するのか。

谷平議員：誰が報告するのかは内容によって決めた方が良いのではと考えている。

井上会長：詳細に関しては当日までに考える。報告なので、4点に限らずど

れもやってもいいのではと自分は考える。

木村議員：梶谷議員からあったとおり、議論がされていないものもある。また、提言になっていないものがある。そういったものはいかななものか。方向性がきちんとしていないものは提言できない。検討した方がよいものはたくさんある。提言する方向性を決めたものを取り上げないと市民も分からないと感じた。

（３）互助会研修について

関戸議員：11月12日午前8時45分に出発する。資料に基づき行程を説明。

事務局：大野市役所で昼食と会議となっているが、ここはまだはっきりしていない。昼食は大野市から紹介していただいたところか、結とぴあという施設になる。先方の議員と昼食を食べてからになるかもしれない。大野市からの返答待ち。議員互助会費を使うので、少し遠回りになるが渋滞を避け名神北陸道を利用する。また、昼食代をどの程度に設定するか。

関戸議員：昼食は2,000円くらいを予定しているが、高いか。

事務局：議員互助会費は合計で22万円から23万円ほどある。

須藤議員：帰りが午後5時30分だが、これより遅くなることはないか。

関戸議員：通常ならこの行程で十分ゆとりのあるスケジュールとしているが、留意して進めていく。

井上会長：昼食を食べながらか、昼食を食べてからか。食べてから話合いをした方がよいのではと思うが。

大野議員：会長一任でいかがか。

井上会長：会長一任で進める。意見があれば会長へ言ってほしい。

（４）今後の予定

井上会長：資料に基づき説明。

- ・11月22日の市民団体の意見交換会について

水野議員：前は午後7時からであったが、今回は午後6時となっている。どちらが正しいか。

井上会長：再度市民プラザに確認する。夕刻と聞いている。

（５）その他

井上会長：議会主催の講演会について、今までは防災についてであったが、防災が2回続いたので、ゼロカーボンの関係を考えている。日程は2月8日か9日で考えている。次回の議会基本条例推進協議会は10月15日の午後1時30分から開催する。10月の議会報告会のチラシ10枚はレター

ケースに入れて各議員へ配付する。

9 その他

なし